

できごと

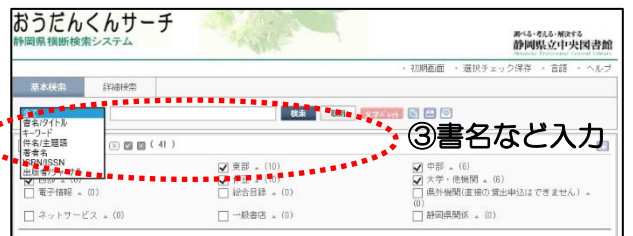
令和2年10月23日(金)から11月10日(火)の間、期間限定の動画配信により、「子ども図書研究室講演会」を開催しました。今回は、翻訳家の原田勝氏に、「翻訳作品は世界への窓、心のフィルター」という演題でお話いただきました。2ページ目にてその一部を報告します。

また、当館では新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、通常は、当館子ども図書研究室を会場に開催している「新着児童図書を語る会(通称:新刊サロン)」を、動画配信により開催しています。今回はその試みについて、3ページ目にて紹介します。

子ども図書研究室の活用方法その1～資料を近くの図書館に取り寄せる～

◆
当館に来館しなくても、子ども図書研究室をご活用いただける方法をご紹介します。第1回目は、「子ども図書研究室資料を近くの図書館に取り寄せる」です。

◆
子ども図書研究室では、絵本・児童書を全点収集しています。お近くの図書館にお求めの絵本や児童書の所蔵がない場合、その資料が当室にあれば、お近くの図書館まで取り寄せることができます。ここでは、当館だけではなく、主に県内の公共図書館の本の所蔵状況を一斉に調べることができる「おうだんくんサーチ」をご案内します。おうだんくんサーチは、当館ウェブサイトのトップページから、①「資料をさがす・調べる」をクリックし、②左から2段目の「県内横断検索「おうだんくんサーチ」」をクリックします。③「おうだんくんサーチ」のリンクから検索画面が表示されますので、書名や著者名などをご入力ください。④当館で所蔵していると図のように表示されます。貸出区分が「貸禁資料」とありますが、お近くの図書館まで取り寄せることができます。取り寄せについては、お近くの図書館にお問い合わせください。なお、利用対象者は中学生を除く15歳以上となっておりますのでご注意ください。



令和2年度 子ども図書研究室講演会

今年度は、翻訳家の原田勝さんを講師にお迎えしました。『翻訳作品は世界への窓、心のフィルター』と題してお話しいただいたことの一部をご報告します。なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講演会は期間限定の動画配信での開催となりました。



1 1957年、神奈川県平塚市生まれ。子どものころ、歩いて1分のところに図書館があり、ホームズやルパンなど世界の文学が揃っていた。また、当時は多くの出版社が子供向けの世界文学全集を出版しており、そのシリーズの1つを購入、毎月2冊ずつ家に届いていた。それが自分にとって外国文学の原点。その後、翻訳物に限らず本を読むようになるが、高校時代にロシア文学にはまったことがきっかけで、大学ではロシア語を専攻。卒業後は重機メーカーに就職し、のちに退職。学習塾講師となる傍ら翻訳学校へも通い、翻訳の世界へ。金原瑞人氏の授業に大きな影響を受け、ヤングアダルト作品のジャンルを手がけるようになった。



『弟の戦争』（1995年 徳間書店）は、翻訳家としてのほぼデビュー作で、湾岸戦争がテーマ。会社員時代にイラクに赴任した経験もあり、作者が訴えたいこと、物語に込めた思いに共感し、面白いと感じた。翻訳するとき、その作家や作品の主張に共感できることは大切であり、それがないと読み取りが浅くなってしまう。重いテーマの作品ではあるが、よい出会いだっただ。



翻訳を続けて感じているのは、翻訳作品は、「世界への窓」ではないかということ。昔に比べて、今は世界を知る情報があふれ、すぐ触れることもできる。しかし、どこか内向きな社会になっているのでは。世界で起きていることを知り、「自分の今の生活はこれでいいのか」

など考えてもらいたい。日本の生活が「普通」ではないことを特に若い人に知ってもらいたい。さらに、同時代の外国の作家が若い読者に向けて書いていることを届けたいという思いもある。また、外国文学は「心のフィルター」の役目もあると思う。1つは「物語」というフィルターにより疑似体験をすることで作中人物の身になって“体験”できること。もう一つは「外国」というフィルターにより、客観化ができること。例えば、今の日本での差別などを描くと、日本の読者には近すぎて冷静に判断できない部分があるが、環境が違う海外で起きる物語の中の差別であれば、さらにフィルターがかかり、客観視しやすい。



質疑応答より1つご紹介します。

質問 Q. 学習塾講師として今の子どもに会うことで、翻訳に活かされることはあるか？

回答 A. 生徒の中には、毎年、一人二人は本が好きな子がいるので、そういう子と本について話すことはとてもいい時間。高校生の彼らの方が鋭いなと思うこともあり、いい加減な翻訳はできないと感じる。



講演ではこの他、翻訳作品が書店に並ぶまでの流れや、どのように翻訳する作品を探しているのか、また、これまでご自身が翻訳された作品も数多く紹介されました。当館でも所蔵しておりますので、ぜひご一読ください。

(安田)

所蔵資料から

読み物



『弟の戦争』
ロバート・ウェストール／作
原田勝／訳
徳間書店 1995年

「新刊サロン」動画配信の試み 報告

子ども図書研究室では、出版された児童書をほぼ全て購入する全点収集を行っており、子どもと本を結ぶ大人の方向けに様々なサービスをしています。その一つ「新刊サロン」は、児童書の新刊を囲んで職員が本の紹介をしたり参加者の皆さんとお話ししたりする会で、年5回開催しています。令和2年度の第1回目は6月17日を予定していましたが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、図書館は4月下旬から臨時休館、その後5月中旬には開館を再開しましたが、参加者を募集してのイベントは全て中止となりました。

「新刊サロン」は繰り返し参加して下さる方も増えてきたイベントですし、臨時休館をしても図書館での選書は続けています。何もしまいまでは新刊情報をお伝えする機会がなくなってしまいます。そんな時、書店や図書館がSNSを使って本の紹介をしている動画を目にしました。参加者と直接お話しできる場が作れなくても、代わりにできることがあるかもしれないと考え、早速館内で検討しました。検討の結果、当館の公式YouTubeチャンネルにて新刊紹介の動画配信を試行することが決まりました。動画を配信することは、当館として初めての試みでした。

動画は児童サービス担当者2人でiPadを使って撮影、広報担当者が動画を編集し、「知識の本」「物語」「絵本」の3本の動画で計32冊を紹介しました。実際に動画を作ってみると、イベントの開催とはまた違う苦労がありました。例えば、通常の新刊サロンでは、本の中の絵や図を実際に参加者の皆さんがその場でご覧になれます。しかし動画配信では本の中身を見せることは著作権者の許諾が必要なため、映すのは表紙のみとしました。中を見ていただけない分、本の内容をより詳しくイメージできるように伝える技術が必要でした。また、イベント

時にはその本の少し気になる点（惜しい点、こうだったらもっとよかったのと思う点など）もお伝えしていますが、不特定多数の方が視聴できる動画では紹介するのは良かった点のみとしました。動画でその本を多面的に紹介することの難しさを感じました。

当初の目標は再生回数3桁でしたが、第1回新刊サロンは配信されてから24時間で総再生回数1,061回にもなりました。公共図書館の児童サービス担当者や、学校司書、教員、書店員、ボランティア活動をされている方々などが視聴してくださったようです。いつもの新刊サロンには遠かったり仕事があったりで行けなくても、動画配信だから見る事ができたという声もありました。県内外から予想以上の反響があり、新刊児童書紹介の需要があることを実感しています。

動画配信は24時間限定としていましたが、反響を受けて再配信を行いました。そして、現在は第1回と2回目の反省を踏まえ、照明の導入やオープニング動画を作った「第3回新刊サロン」を12月24日まで配信しています。第4回新刊サロンも配信予定です。

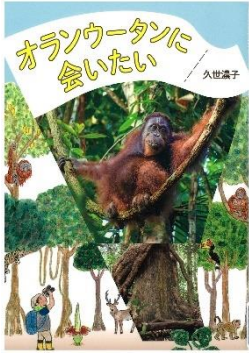
生活様式が変わっていく中で、図書館でどのようなサービスを行うべきかはまだ模索途中です。子ども図書研究室では、今後も様々な方法を試みながら、お役に立てるよう取り組んでいきたいと考えています。

（眞子）



第3回新刊サロン（2020年11月配信）の様子

知識



『オランウータンに
会いたい』
久世 濃子／著
あかね書房
2020年3月

ヒト以外で、現在までアジアに生息している唯一の大型類人猿であるオランウータン。彼らはアジアの熱帯雨林で生き延びるために、その環境にあった独自の体と能力を身につけていった。このため、「地球上で最大の樹上に暮らす動物」「最も出産の間隔が長く、死亡率の低い哺乳類」など、かなり変わった特徴を持つ「霊長類」へと進化したという。著者は20年近くオランウータンを研究。本書では、地道な調査の様子も紹介されており、フィールドワークの魅力が伝わってくる。【中学生から】(安田)

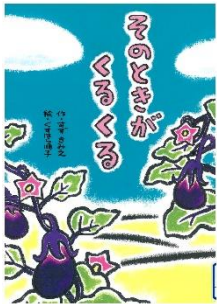
読物



『秘密のノート』
ジョー・コットリル／作
杉田 七重／訳
小学館
2020年6月

お調子者でモノマネが得意なジェリーは、いつだって「選択肢その二：笑い飛ばす」を選んできた。クラスメイトも親友もママも「元気で明るく笑わせてくれるジェリー」を求めているから。でも本当は体型のことを言われて傷つくし、クラスの人気者でなくなる日を恐れている。誰にも言えない気持ちは詩にして秘密のノートに綴っている。ママの新しい恋人レノンに詩を見せると、曲をつけたいと持ち掛けられた。ルッキズムや偏見、差別を許さない著者の思いも込められる。【中学生から】(眞子)

読物



『そのときがくるくる
わくわくえどうわ』
すず きみえ／作
文研出版
2020年4月

たくまは、なすが嫌いでもどうしても食べられない。なすが給食に出る日は学校にも行きたくない。夏休みにおじいちゃんの家で過ごし、畑のお手伝いをした。夜ごはんには畑でとれた野菜の料理がたくさんならば。おじいちゃんもたくまに苦手ななすを無理に食べさせることはしない。「今は食べられなくても、おいしく食べられる「そのとき」はそのうちくるよ」というおじいちゃんという言葉が、たくまにもきっと「そのときがくる」という希望を与えてくれる。【小学校低学年から】(木村)

絵本



『かなへび
かがくのとも絵本』
竹中 踐／ぶん
福音館書店
2020年4月

庭や公園で日向ぼっこをしている小さなトカゲを誰もが一度は見たことがあるだろう。小さな手足や、つぶらな目は意外に可愛い。そんな身近な爬虫類「かなへび」の生活を、詳細なイラストで丁寧に紹介している。かなへびの日常以外にも、たまごが水を吸って2倍近く大きくなることや、卵から孵った赤ちゃんがすぐに餌の虫を捕まえることができることなど、不思議な生態を知ることで、子どもたちの興味、好奇心を更に広げていける。【幼児から】(水井)